

群馬県教育委員会における事例

目標

○コミュニケーションツールとしての英語力と自立的な英語学習態度の育成

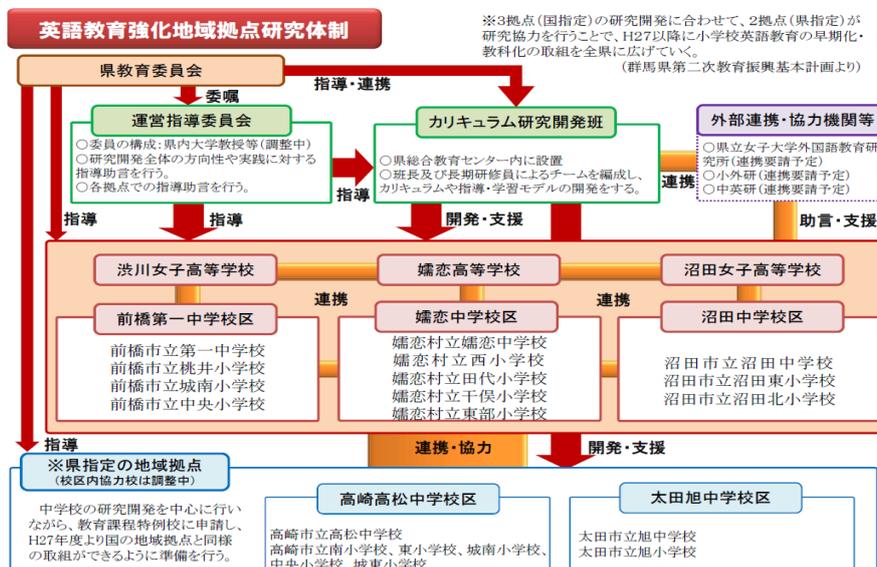
主な内容

- 小中高一貫した学習到達目標の設定と評価の改善
 - ・各発達段階に応じた学習到達目標の設定
 - ・定期考査やパフォーマンステストの改善・開発
 - ・自律的な学習態度育成のための家庭学習、系統的な辞書指導等に関する研究
- 小中高一貫したカリキュラムの開発
 - ・小学校低学年：英語に触れる機会の充実
 - ・小学校中学年：外国語活動の早期実施
 - ・小学校高学年：教科としての英語学習の実施
 - ・中学校：英語で行う授業スタイルについて指導の在り方の研究
 - ・高等学校：ディスカッション、ディベートなどを中心とした言語活動の実施
- 小中高を通じた地域題材を活用した単元開発

研究計画

- 研究1年次：群馬県教育委員会と強化地域拠点における指導・研究体制の確立。強化地域拠点内の学校におけるカリキュラム開発と検証・改善。
- 研究2年次：県として、各学校の学習到達目標を含めた指導計画作成のための支援資料作成。協働学習を中核とした言語活動の実践。
- 研究3年次：評価方法の研究開発（定期考査・パフォーマンステストの改善）。家庭学習の実践・学習モデルの開発。
- 研究4年次：3年間の検証・総括。次期学習指導要領の改訂を踏まえ、県としての指導・評価方法等のモデル確立・普及。

研究体制



研究1年次の取組

月	強化地域拠点の取組
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域拠点ごとの連携体制の整備 ・ 本年度の研究開発課題や計画の共通理解 ・ 校内研究組織の整備、学校ごとの研究計画の立案 ・ 各拠点地域担当者会議の実施
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回県英語教育連絡協議会 ・ 授業実践
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各拠点地域担当者会議の実施 ・ 各拠点地域における授業公開（小中高） （2学期実施の管内における公開授業のプレ授業）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践 ・ 周辺校（各拠点地域）への研究成果の発信 ・ 児童生徒、教員への質問紙調査の実施（1回目）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期の研究推進の総括 ・ 各拠点地域担当者会議の実施 ・ 各研究校における校内研修の実施
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各拠点地域担当者会議の実施 ・ 各拠点地域における授業公開（小中高） ・ 研究校における授業公開に基づく教員研修の実施（小学校）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践 ・ 英語力判定テスト（中学校2年生予定） ・ 周辺校（各拠点地域）への研究成果の発信
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期の研究推進の総括 ・ 各拠点地域担当者会議の実施 ・ 授業実践
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回県英語教育連絡協議会 ・ 各拠点地域における授業公開（小中高） ・ 本年度の研究推進の総括
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度の研究開発の準備

国際的視点に立ち、自らの考えを発信できるぐんまの子どもの育成

国の英語教育改革推進計画(平成30年度から実施)

小学校3・4年 → 小学校5・6年 → 中学校 → 高等学校
 外国語活動 教科「英語」 英語による授業 高度な言語活動
 <早期化> <教科化> <高度化>

本県の教育課題

【英語教育の課題】

- ・小、中、高の円滑な接続
- ・教員の指導力・英語力の向上

【国際化に向けての課題】

- ・群馬県人としてのアイデンティティーの向上
- ・自国と外国の文化を理解する力の育成

豊かな語学力の育成を目指した外国語教育の推進

「群馬県版小学校英語教育カリキュラム」の開発

☆平成26年度～28年度

☆カリキュラム開発チーム(総合教育センター)による指導計画、指導資料、映像・音声教材の開発

- 小学校1・2年生用 外国語活動カリキュラム 10時間
- 小学校3・4年生用 外国語活動カリキュラム 70時間
- 小学校5・6年生用 教科「英語」カリキュラム 105時間

「英語の授業力アップ」教員研修

☆平成27年度～29年度

- ☆指導力アップ研修・・・○小学校英語教育推進教員養成研修
○中学校英語教員指導力向上研修
○高等学校英語教員指導力向上研修
- ☆英語力アップ研修・・・○中高の英語教員の英語力を英検準1級程度に

英語教育強化地域拠点事業

○**県内5拠点を指定**(平成26年度～29年度)
 国指定:前橋(中部)、嬬恋(吾妻)、沼田(利根)
 県指定:高崎(西部)、太田(東部)

○各地域拠点内に、小、中、高の研究校を置く。

○先進的实践研究

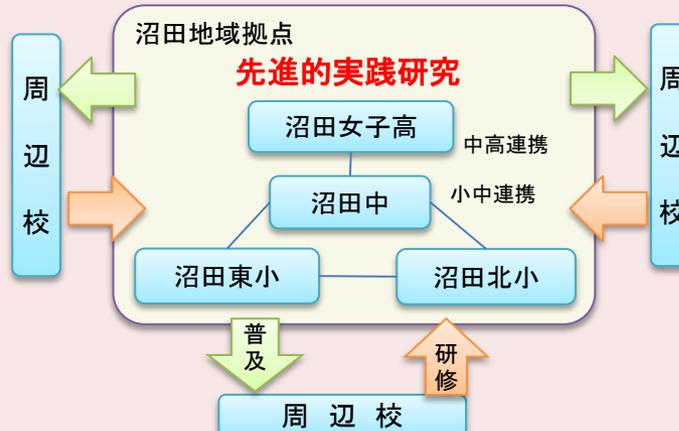
- ・「群馬県版小学校英語教育カリキュラム」の先行実践
- ・小学校英語教育を踏まえた中学校、高等学校の指導方法の研究
- ・中高生徒の英語力の測定(外部試験の実施)による研究成果の検証

○周辺校への**研究成果の普及**

○研究校での**周辺校教員の研修**

(例)利根管内

研究成果の普及・周辺校教員の研修



- ・研究校は、周辺校にカリキュラムの提供や指導法の提案を行う。
- ・周辺校教員は、研究校での授業参観等を通して研修を行う。

目指す児童生徒の姿

【高校生】

- ・郷土の歴史、文化を話題として外国人と対話することができる。
- ・英検準2級の生徒が60%以上

【中学生】

- ・郷土の歴史や文化について簡単な英語で紹介することができる。
- ・英検3級の生徒が50%以上

【小学生】

- ・あいさつや自己紹介をしたり、自分の気持ちを伝えたりすることができる。
- ・英語の学習が好きな児童が100%

平成26年度 英語教育強化地域拠点事業(全体構想図)

県教育委員会義務教育課

第2期 群馬県
教育振興基本計画

国の計画(平成30年先行実施)

【小学校第3・4学年】
・外国語活動
(週1～2コマ程度)

【小学校第5・6学年】
・教科「英語」
(週2～3コマ程度)

【中学校】
・到達目標の高度化
(授業を英語で行う)

【取組の柱③】
国際的視点に立ち、自らの考えを発信できる力の育成

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(H25年12月)において、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の充実が示された。

国指定の地域拠点(3拠点:前橋市・嬬恋村・沼田市)

県指定の地域拠点(2拠点:高崎市・太田市)

<小学校>

- 小学3・4年生の外国語活動の実施(H26、27年度 週1時間)
- 小学5・6年生の教科としての英語の実施(H26 週1時間、H27～週2時間)

<中学校>

- 英語で行う授業スタイルの実践
- CAN-DO型到達目標の設定と評価方法の工夫
- 辞書指導や家庭学習に関する実践研究

<小中共通>

- 協同学習を中核に据えた言語活動の実践
- 英語能力判定テストによる成果の検証

<小学校>

- 小学校英語の早期化、教科化を見据えた工夫や指導体制に関する実践研究
- 文字指導の工夫に関する実践研究 など

<中学校>

- 英語で行う授業スタイルの実践
- CAN-DO型到達目標の設定と評価方法の工夫
- 辞書指導や家庭学習に関する実践研究 など

<小中共通>

- 協同学習を中核に据えた言語活動の実践
 - 小学校外国語活動担当と中学校英語科職員
の相互授業参観や情報交換 など
- ※平成26年8月に特例校申請を行い、小学校英語教育の早期化・教科化ができるようにする。

カリキュラム開発チーム(県総合教育センターに設置)

連携協力校(高等学校)

◎ 小学校英語教育の早期化及び教科化に関わるカリキュラム開発の拠点

◎ 新課程における指導改善の拠点

光華女子学園における事例

目標

- 自国の文化理解・発信能力の育成
- グローバル化社会に対応できるコミュニケーション能力を備えた人材の育成

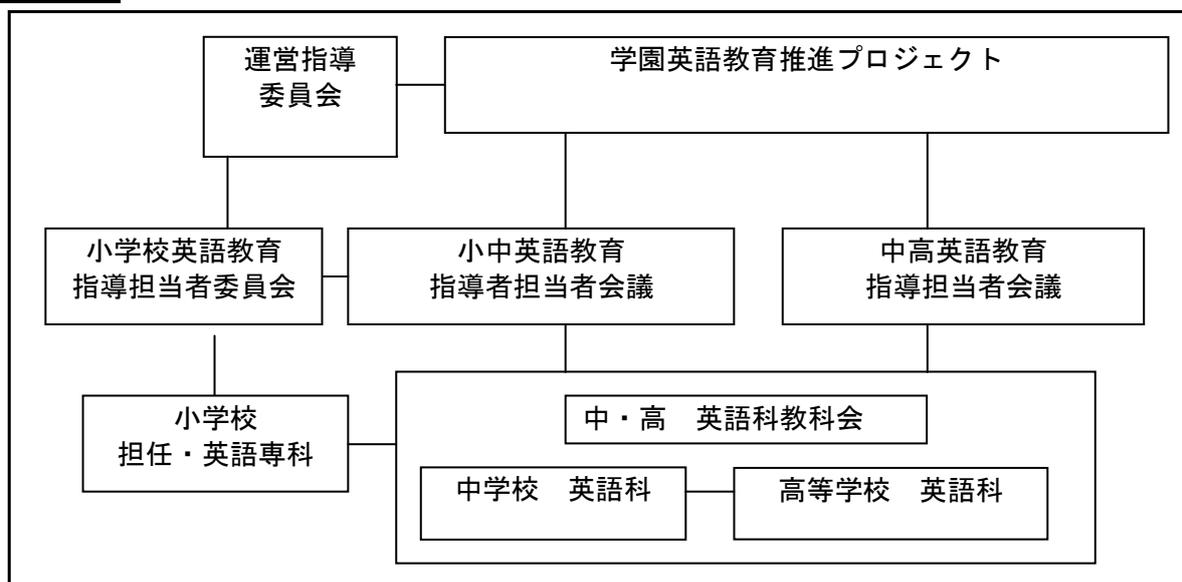
主な内容

- 小中高一貫した学習到達目標と評価の設定
- 小中高一貫した効果的なカリキュラムづくりと指導方法の開発
 - ・小学校：「読む」「聞く」「話す」「書く」ことの導入を含む指導方法の研究
 - ・中学校：小学校での外国語活動、及び高学年教科としての外国語の流れを受けての指導方法等の研究
 - ・高等学校：高度な言語活動を含む指導方法等の研究
- 地域の大学との連携による教員の指導力向上

研究計画

- 研究1年次：小中高一貫した学習到達目標の設定。小中高の一貫性を意識したカリキュラム作成、及びその実践。
- 研究2年次：1年次に研究した学習到達目標・カリキュラム等の検証と改善。
- 研究3年次：2年次において改善した目標・カリキュラムの実践。効果的な指導方法の確立と深化した取組の実施。
- 研究4年次：3年間の検証・総括。指導方法・評価方法等のモデル確立・普及。

研究体制



学習到達目標を設定することにより、小中高のつながりを見据えた授業づくりができるようになった。また、異学年間でどのような学習をしているかも把握できるため、次の学年につながる指導も意識できるようになった。

他教科との学習内容を踏まえて、タスクを実施するタイミングを再考する必要がある。また、学習到達目標が妥当であるか検証をしていく必要がある。

研究1年次の取組

月	強化地域拠点の取組
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園英語教育推進プロジェクト ・ 指導担当者会議（小・中・高） ・ 推進リーダー会議
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中高英語授業研修 ・ 推進リーダー会議 ・ 学識経験者と推進リーダーとの会議
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進リーダー会議 ・ 研修会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導担当者会議（小・中・高） ・ 推進リーダー会議 ・ 学識経験者と推進リーダーとの会議
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園英語教育推進プロジェクト ・ 指導担当者会議（小・中・高） ・ 研修会（小中高全体研修含） ・ 推進リーダー会議
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中高英語授業研修 ・ 研修会 ・ 推進リーダー会議
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導担当者会議（小・中・高） ・ 小中高英語授業研究発表会予定 ・ 推進リーダー会議 ・ 学識経験者と推進リーダーとの会議
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進リーダー会議
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導担当者会議（小・中・高） ・ 研修会 ・ 推進リーダー会議 ・ 学識経験者と推進リーダーとの会議
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導担当者会議（小・中・高） ・ 推進リーダー会議
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園英語教育推進プロジェクト ・ 指導担当者会議（小・中・高） ・ 推進リーダー会議 ・ 学識経験者と推進リーダーとの会議

目的

「ふるさとを愛し、その良さを広く世界に発信しようとする意欲とコミュニケーション能力の基礎を身に付け、グローバル社会に向けて自らの生き方を切り拓いていこうとする心情や態度を養う英語教育の在り方を探る」

研究の内容

- I 小・中・高等学校をつなげる「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の設定
- II 複式学級における3・4年の外国語活動、5・6年の教科型(4技能)の教育課程や指導方法等を明確化
 - 各学年の具体的な教育課程と年間指導計画の設定
 - 複式学級における指導計画の策定
 - 学習意欲を低下させない言語活動の工夫

H26成果

- 様々な研修会等を実施、小・中・高校で連携して取り組む体制を整備。
- 「英語を使って何ができるようになるか」という観点から設定したCAN-DOリストの形での学習到達目標に基づいた単元計画の考え方が浸透。
- 児童生徒の学習意欲・英語力が向上。

効果の一例

○民間の資格・検定試験を活用した小学校3～6年生の英語力の把握（雲南市の例）

【英検Jr. (BRONZE)】

※児童を対象とした英語検定

※難易度により、BRONZE、SILVER、GOLDIにレベル分けされている。

【対象と時期】

- ・3年生15人、4年生10人、5年生5人、6年生10人(計40人)
- ・2014年度、7月と3月の2回にわたり実施。

【結果】

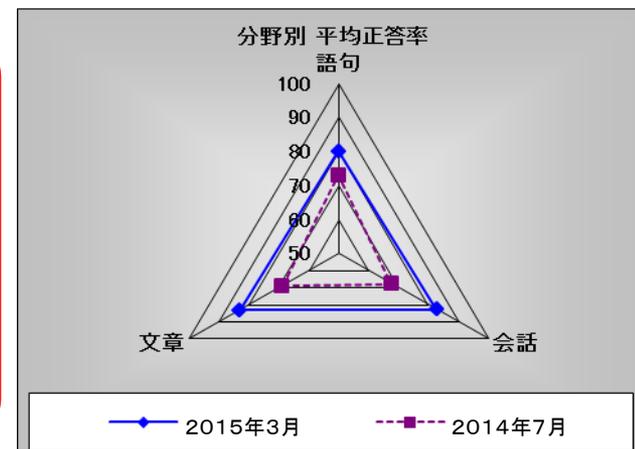
(全体)

年度	団体数	受験者数	平均
2015年3月	2	40	80.9
2014年7月	2	40	70.5

(内訳)

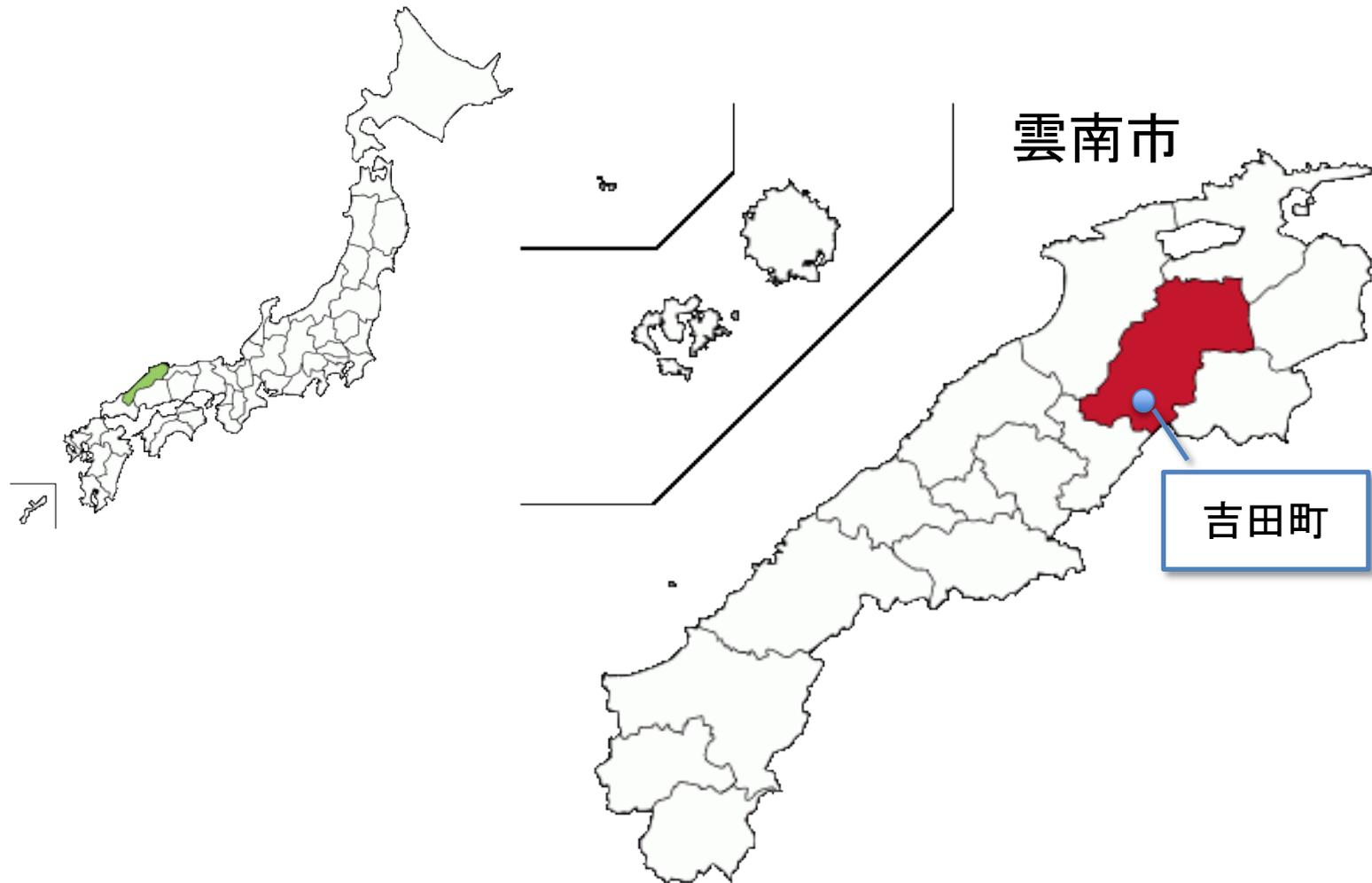
平均正答率		
語句	会話	文章
80.1	82.7	83.1
73.1	67.7	68.8

- 2014年度間では平均得点が約10ptアップ。
- 全ての分野の得点がバランスよく向上。
- 正答率50%未満の児童がゼロになり、70%以上正解した児童の割合増加。



1 島根県の実施概要

島根県の英語教育強化地域拠点



島根県の英語教育強化地域拠点

雲南市立吉田小学校(全校児童31名)

雲南市立田井小学校(全校児童26名)

雲南市立吉田中学校(全校生徒32名)

島根県立三刀屋高等学校(全校生徒468人)

小規模学校における外国語教育が主な研究テーマ

研究開発課題

○複式学級における外国語活動及び英語科の教育課程、指導方法、評価方法並びに教員研修の在り方

○小学校英語科と円滑に接続し、小規模学校の特色を生かして着実な定着を図る中・高等学校の教育課程の在り方

目標及び内容は、有識者会議で示されたものを基本として設定し、実践を通して修正・変更していくこととした。

特徴的な取組(計画を含む)

- 研究組織の整備
- 教材の開発
- 複式学級における教育課程、指導方法等の研究
- 英語コーディネータの活用
- 小・中・高をつなげる「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の設定

○研究組織の整備

「吉田中学校区小・中・高等学校英語教育
強化推進研究会」

- 授業研究部
- 教材研究部
- 小中高地域連携部
- ALT研究部

○研究組織の整備

組織活性化のポイント

- 小学校のチーム力を生かす
- 中学校・高等学校をチーム化する
- 全研究校で共通文化を醸成する

2 学校で取り組んでいること

○複式学級における教育課程、指導方法等の研究

1年間同一教材を使う「A・B年度方式」

A年度 → B年度 → A年度

A年度		B年度		A年度	
5年	6年	5年	6年	5年	6年
L.1	L.1	L.1	L.1	L.1	L.1
L.2	L.2	L.2	L.2	L.2	L.2
L.3	L.3	L.3	L.3	L.3	L.3
L.4	L.4	L.4	L.4	L.4	L.4
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

Hi, friends! 1
使用

Hi, friends! 2
使用

Hi, friends! 1
使用

単元配列を組み替える「A・B年度方式」

A年度 → B年度 → A年度

A年度		B年度		A年度	
5年	6年	5年	6年	5年	6年
L.1	L.1	L.3	L.3	L.1	L.1
L.2	L.2	L.3	L.3	L.2	L.2
L.1	L.1	L.4	L.4	L.1	L.1
L.2	L.2	L.4	L.4	L.2	L.2
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

Hi, friends! 1・
2使用

Hi, friends! 1・
2使用

Hi, friends! 1・
2使用

2 学校で取り組んでいること

○複式学級における教育課程、指導方法等の研究

3・4年生複式学級用単元配列案

第3・4学年 外国語活動 単元配列表

東京都立青島小学校・田井小学校

A年度（27年度）		B年度（28年度）		
学期	単元名	学期	単元名	
1学期	1. 英語であいさつ 【目標】2年生・英語の挨拶に慣れ親しむ。 4年生・声量をもって大きな声で挨拶しようとする。 【教材】Hello! My name is ~. What's your name? Thank you. Goodbye. 2. こまげんいあげ 【目標】2年生・英語の挨拶に慣れ親しむ。 4年生・自分の名前や気持ちを伝えようとする。 【教材】How are you? I'm happy. 降参・怒顔を表す顔のHappy, Sad, sleepy, hungry, tired, sad, コスチューム。 3. 好きなものはなに? 【目標】2年生・色や野菜、フルーツの名前を英語で言おうとする。 4年生・自分の好きな物について英語で伝えようとする。 【教材】I like ~. I don't like ~. Do you like ~? Yes, I do./No, I don't. 色、野菜・フルーツの名前。	4	4	
	4. 遊ぶ楽しさ 【目標】2年生・スポーツや遊具についての英語に慣れ親しむ。 4年生・自分がすることや英語で伝えようとする。 【教材】I play ~. / Do you play ~?			4
	5. 英語で歌えよう 【目標】2年生・身の回りの物や数の言い方に慣れ親しむ。 4年生・いろいろな物の名前を英語で言おうとする。 【教材】How many pencils? Five pencils. 身の回りのもの (cat, dog, ball, pencil, apple), 数字 (one, two, three, ~), twenty.			
6. ハロウィン・クリスマス 【目標】2年生・楽しみの言葉を上手に使う表現に慣れ親しむ。 4年生・積極的に自分の好きなものを言おうとする。 【教材】What do you want? 品名カードの名前。	4			
7. クイズ大会しよう 【目標】2年生・What's that?の質問に英語で答えようとする。 4年生・図の中は何でしょう?ゲームで積極的に英語で尋ねようとする。 【教材】動物・身の回りの物の名前, What's that? It's a cat./ a piano.		5		
8. クイズ大会しよう 【目標】2年生・色や形の英語に慣れ親しむ。 4年生・アルファベットの小さな字に慣れ親しむ。 【教材】色・形の英語, アルファベットの小さな字。			2	
9. 自分名刺を作ろう 【目標】2年生・色や形、顔の部分の英語に慣れ親しむ。 4年生・色や形、顔の部分の英語を積極的に言おうとする。 【教材】色・形の英語, 顔のパーツの英語。	3			
10. 名前を覚えよう 【目標】2年生・顔や名前、顔の部分の英語に慣れ親しむ。 4年生・簡単な道案内の仕方に関心をもつ。 【教材】Let's go to ~. Go straight. Turn right/left. Stop. 身近な建物など。		3		
11. 学習のまとめよう English Passport を発行しよう (27年度1学期、28年度2学期の英語の学習のまとめ)			2	

1学期合計単元数 12

2学期合計単元数 15

3学期合計単元数 8

年間合計単元数 35

1学期はA・B年度とも同じ単元にし、はじめて英語に出会う3年生に配慮する。
4年生は、前年度とは違う関わり方を設定する。

2学期は、A年度とB年度で違う単元を設定する。

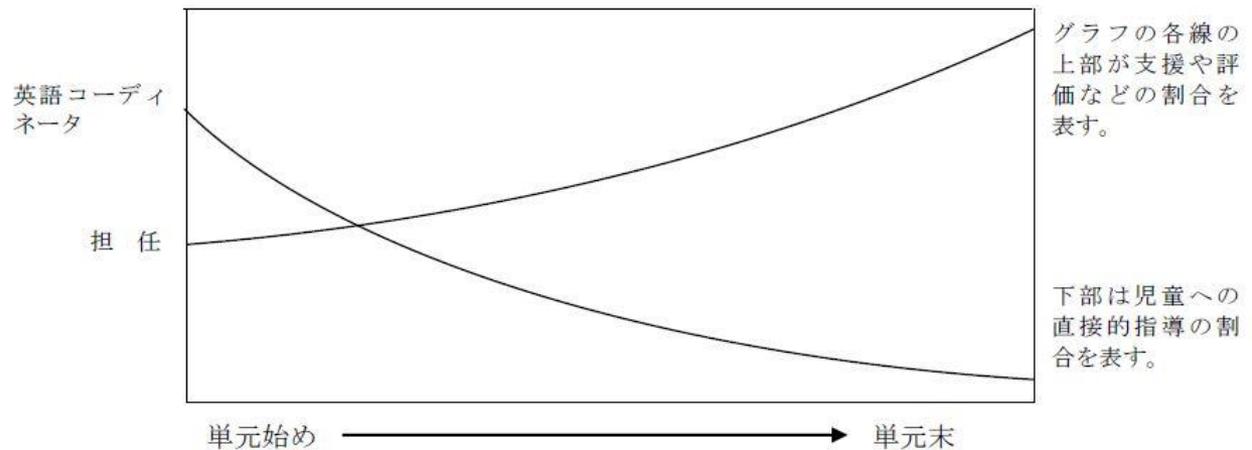
3学期末は、4年生の高学年(教科)への接続を踏まえた単元を設定する。

2 学校で取り組んでいること

○英語コーディネータの活用

- 「専科」ではなく「コーディネータ」
- 「フェードアウト型連携」

担任と英語コーディネータの授業における直接的指導と支援・評価等の割合の変化のイメージ



- 対角線連携

○教材の開発

高学年用教材

- H26: Hi, friends! を中心に実践し70時間分の単元配列を作成した。
- H27: その単元配列に従い、Hi, friends!及び市販教材を参考にしながら各単元の教材を準備する。それらをデータ化するなどして、H28からの活用を目指す。また、文部科学省が作成する補助教材を活用する。

○教材の開発

中学年用教材

- ・ H26: 自作教材や市販教材を活用して実践し、記録した。その実践を基に次年度以降の35時間分の単元配列を作成した。
- ・ H27: 前年の取組を改善・修正しながら、単元ごとに教材を準備する。H28からの活用に向け、中学年用教材35時間分のデータ化を目指す。

2 学校で取り組んでいること

○教材の開発

地域素材を取り入れたオリジナル教材

- ・言語活動のための副教材を作成する
- ・小3～中3まで継続的に使用する

(例) ヤマタノオロチを題材とするもの			
小学校中学年	小学校高学年	中学校前期	中学校後期
オロチのうろこの色 を題材にした慣れ 親しみの活動	「スサノオノミコト」と 「くしなだひめ」の会 話を使った活動	ヤマタノオロチにつ いての簡単な英語 によるQ&A	ヤマタノオロチにつ いて感想を交えて 行うスピーチ

2 学校で取り組んでいること

○小・中・高等学校をつなげる「CAN-DOリスト」 の形での学習到達目標の設定

- ・中学校：島根県方式（単元積み上げ式）で作成済み
- ・高等学校：文部科学省の手引きにより作成済み（中とは未接続）
- ・小学校：H27作成予定

最後に

様々な「連携」の必要性

研究校間、自治体間の連携や情報交換を

ともに手を取り進みましょう

(1) 英語教育強化地域拠点事業

平成28年度概算要求額 85,166千円(89,267千円)

概要

教育再生実行会議
第三次提言
(H25. 5. 28)

第2期教育振興
基本計画
(H25. 6. 14)

グローバル化に対応した
英語教育改革実施計画
(H25. 12. 13)

英語教育の在り方に関する
有識者会議 報告
(H26. 9. 26)

中央教育審議会における
審議 論点整理
(H26. 11~H27. 8)

〈今後の英語教育の方向性〉

- ・小・中・高を通じて「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、四技能に係る一貫した具体的な指標の形式で示す
- ・小学校では、中学年から外国語活動を開始し音声に慣れ親しませるとともに、高学年では、学習の系統性を持たせる観点から教科として行う、中学校では、授業は英語で行うことを基本とする、高等学校では、幅広い話題について発表、討論・議論、交渉などを行う能力を高める
- ・これを踏まえ、先進的な取組を支援するとともに、その成果を今後の英語教育の在り方に関する検討に生かす

※ 委託事業：25地域(都道府県・政令指定都市教育委員会、国公私立大学法人、学校法人)

文部科学省

- ・研究開発の方向性の設定
- ・英語教育強化地域の選定・指定
- ・研究開発に関する各種経費支援
- ・定数加配
- ・収集すべき定量的データの検討
- ・英語教育強化地域における具体的な取組や評価の在り方について検討・実施
- ・連携協議会の開催
- ・その他、英語教育強化地域に対する支援・指導・助言 等

委託

管理機関

(教育委員会、学校法人、国立大学法人)

協力

大学等

進捗管理 指導・助言

英語教育強化地域拠点

...それぞれの研究開発課題を実践

小・中・高等学校の連携



小学校



中学校



高等学校

高大接続研究

助言・援助等

■研究開発課題(例)

- (1) 小・中・高等学校を通じた目標の設定
- (2) 小学校では、中学年から外国語活動開始及び高学年での教科化
- (3) 中学校では、互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を重視、授業は英語で行うことを基本とする。
- (4) 高等学校においては、幅広い話題について発表、討論・議論、交渉などを行う能力を高めること
- (5) 小中・中高の学びが円滑に行われるための取組 等

■検証すべき取組・データ(例)

- 英語運用能力に関する評価研究
- 小学校の新たな外国語教育における補助教材を活用した研究
- 英語学習に対する関心・意欲
- 他教科等への影響 等

(参考)平成27年度 英語教育強化地域拠点事業 地域拠点一覧

**29件
211校採択**

設置者	学校名
★北海道	北海道寿都高等学校・寿都町立寿都中学校・寿都町立寿都小学校・寿都町立潮路小学校
★岩手県	岩手県立紫波総合高等学校・紫波町立紫波第一中学校・紫波町立日詰小学校・紫波町立赤石小学校・紫波町立古館小学校
★秋田県	秋田県立由利高等学校・由利本荘市立由利中学校・由利本荘市立由利小学校
山形県	山形県立鶴岡南高等学校・山形県立鶴岡中央高等学校・鶴岡市立鶴岡第二中学校・鶴岡市立朝陽第三小学校・鶴岡市立朝陽第五小学校・鶴岡市立京田小学校・鶴岡市立栄小学校
★群馬県	群馬県立渋川女子高等学校・前橋市立第一中学校・前橋市立桃井小学校・前橋市立城南小学校・前橋市立中央小学校 群馬県立嬬恋高等学校・嬬恋村立嬬恋中学校・嬬恋村立西小学校・嬬恋村立田代小学校・嬬恋村立千俣小学校・嬬恋村立東部小学校 群馬県立沼田女子高等学校・沼田市立沼田中学校・沼田市立沼田東小学校・沼田市立沼田北小学校
★埼玉県	埼玉県立宮代高等学校・宮代町立百間中学校・宮代町立東小学校・宮代町立笠原小学校 埼玉県立鴻巣女子高等学校・鴻巣市立川里中学校・鴻巣市立屈巢小学校・鴻巣市立共和小学校・鴻巣市立広田小学校
★千葉県	千葉県立流山おおたかの森高等学校・千葉県流山市立南流山中学校・流山市立西初石中学校・流山市立南流山小学校・流山市立鱈ヶ崎小学校・流山市立西初石小学校
東京都	都立上水高等学校・武蔵村山市立第三中学校・武蔵村山市立第三小学校・武蔵村山市立雷塚小学校 東京都立飛鳥高等学校・荒川区立第七中学校・荒川区立尾久第六小学校
神奈川県	横須賀市立横須賀総合高等学校・横須賀市立常葉中学校・横須賀市立田戸小学校・横須賀市立諏訪小学校
★福井県	福井県立勝山高等学校・勝山市立勝山南部中学校・勝山市立勝山中部中学校・勝山市立勝山北部中学校・勝山市立平泉寺小学校・勝山市立成器南小学校・勝山市立成器西小学校 勝山市立村岡小学校・勝山市立三室小学校・勝山市立野向小学校・勝山市立荒土小学校・勝山市立鹿谷小学校・勝山市立北郷小学校
山梨県	山梨県立白根高等学校・南アルプス市立白根巨摩中学校・南アルプス市立白根飯野小学校・南アルプス市立白根東小学校 山梨県立甲府昭和高等学校・昭和町立押原中学校・昭和町立押原小学校・昭和町立西条小学校・昭和町立常永小学校 山梨県立韮崎高等学校・韮崎市立韮崎西中学校・韮崎市立韮崎東中学校・韮崎市立韮崎小学校・韮崎市立穂坂小学校・韮崎市立韮崎北東小学校・韮崎市立韮崎北西小学校・韮崎市立甘利小学校 山梨県立笛吹高等学校・笛吹市立春日居中学校・笛吹市立春日居小学校 山梨県立市川高等学校・市川三郷町立市川中学校・市川三郷町立市川小学校・市川三郷町立市川東小学校
長野県	長野県小諸高等学校・小諸市立小諸東中学校・小諸市立芦原中学校・小諸市立東小学校・小諸市立坂の上小学校・小諸市立野岸小学校・小諸市立水明小学校・小諸市立千曲小学校・小諸市立美南ガ丘小学校

ブロック別件数
北海道:1
東北:4
関東:5
中部:4
近畿:5
中国:4
四国:2
九州:4

★岐阜県	岐阜県立長良高等学校・岐阜県立大垣西高等学校・岐阜市立長良中学校・大垣市立星和中学校・岐阜市立長良西小学校・大垣市立中川小学校・大垣市立小野小学校
京都府	京都府立園部高等学校・南丹市立殿田中学校・南丹市立胡麻郷小学校・南丹市立殿田小学校 京都府立東宇治高等学校・宇治市立黄檗中学校・宇治市立宇治小学校
★兵庫県	兵庫県立生野高等学校・朝来市立生野中学校・朝来市立朝来中学校・朝来市立生野小学校・朝来市立山口小学校・朝来市立中川小学校
★奈良県	奈良県立高取国際高等学校・奈良県立桜井高等学校・奈良市立平城西中学校・奈良市立右京小学校・奈良市立神功小学校 御所市立葛中学校・御所市立葛小学校・明日香村立聖徳中学校・明日香村立明日香小学校
★鳥取県	鳥取県立八頭高等学校・若桜町立若桜学園中学校・若桜町立若桜学園小学校
★島根県	島根県立三刀屋高等学校・雲南市立吉田中学校・雲南市立吉田小学校・雲南市立田井小学校
★広島県	広島県立賀茂高等学校・東広島市立松賀中学校・東広島市立東西条小学校・東広島市立御園宇小学校
山口県	山口県立光高等学校・光市立室積中学校・光市立室積小学校
★徳島県	徳島県立阿波西高等学校・阿波市立阿波中学校・阿波市立久勝小学校・阿波市立伊沢小学校・阿波市立林小学校
★高知県	高知県立高知西高等学校・中土佐町立久礼中学校・中土佐町立久礼小学校・南国市立香南中学校・南国市立日章小学校・南国市立大湊小学校 高知県立岡豊高等学校・長岡郡大豊町立大豊町中学校・長岡郡大豊町立おおとよ小学校
福岡県	福岡県立直方高等学校・福岡県立鞍手竜徳高等学校・宮若市立宮若西中学校・宮若市立若宮小学校・宮若市立笠松小学校・宮若市立山口小学校・宮若市立若宮西小学校・宮若市立吉川小学校 福岡県立筑紫中央高等学校・那珂川町立那珂川南中学校・那珂川町立安德南小学校・那珂川町立南畑小学校・那珂川町立岩戸小学校・那珂川町立安德小学校
熊本県	熊本県立高森高等学校・高森町立高森東中学校・高森町立高森中学校・高森町立高森東小学校・高森町立高森中央小学校
鹿児島県	鹿屋市立鹿屋女子高等学校・鹿屋市立鹿屋中学校・鹿屋市立鹿屋小学校・鹿屋市立祓川小学校・鹿屋市立東原小学校 鹿児島県立大口高等学校・伊佐市立大口中央中学校・伊佐市立大口小学校・伊佐市立大口東小学校・伊佐市立牛尾小学校・伊佐市立山野小学校・伊佐市立平出水小学校 伊佐市立羽月小学校・伊佐市立羽月西小学校・伊佐市立曾木小学校・伊佐市立針持小学校
★熊本市	熊本市立必由館高等学校・熊本市立錦ヶ丘中学校・熊本市立尾ノ上小学校・熊本市立月出小学校・熊本市立山ノ内小学校
★光華女子学園	京都光華高等学校・京都光華中学校・光華小学校
★京都教育大学	国立大学法人京都教育大学附属高等学校・国立大学法人京都教育大学附属桃山中学校・国立大学法人京都教育大学附属桃山小学校
宮城教育大学	宮城県仙台第二高等学校・宮城県宮城第一高等学校・国立大学法人宮城教育大学附属中学校・国立大学法人宮城教育大学附属小学校

★は平成26年度より継続。そのほかは平成27年度より新規採択。

1. 目的

- 「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告（平成26年9月）における提言を踏まえ、文部科学省において、小学校高学年における教科化に向けた新たな補助教材“Hi, friends! Plus”を作成。
- 研究開発校等において、平成27、28年度の2年間を通じてその効果を検証。
- 中央教育審議会における次期学習指導要領の審議において検証結果を活用するとともに、学習指導要領改訂後の新たな教材開発に活用。

2. 補助教材のポイント

- 次期学習指導要領の改訂に向け、身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」ことなどに加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うことができるよう、映像や音声を活用し、
 - ①アルファベットの文字の認識、
 - ②日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、
 - ③日本語と英語の語順の違いなど文構造への気付き等、に関する指導に必要な新たな教材を開発し、効果を検証する。

3. 配布先

平成27年3月下旬以降、ワークシートのHP掲載に加え、「英語教育強化地域拠点事業」の研究開発学校を中心に、以下の配布先へデジタル教材（DVD）を配布

- ・教育課程特例校、その他、先進的な英語教育を実施する小学校
- ・都道府県・市区町村教育委員会等

平成27年度～28年度

- ・平成28年度に開発した補助教材を「英語教育強化地域拠点事業」の研究開発学校等で活用・検証
- ・検証結果を受け、補助教材を改訂
- ・指導案、事例集(映像資料含む)等の充実

H.28
学習指導要領改訂

平成29年度

28年度までの検証結果や中教審答申を踏まえ、教材を開発

H.30～
学習指導要領
先行実施開始

平成30年度以降

先行実施を行う小学校に配布

平成32年度
全面実施

(参考)H27年度「英語教育強化地域拠点事業」地域の小学校における教科化に向けた実践・検証(イメージ)

小学校5・6年生の外国語活動:年間35時間
(Hi, friends!2 現行)

小学校5・6年生の教科型の授業:年間70時間程度
(Hi, friends!+Hi, friends! Plus+独自教材)

単元名	題材	目標例
Lesson 1	文字・言語	積極的に数字やアルファベット、世界の文字について尋ねたり答えたりする。
Lesson 2	行事・月日	世界の行事や習慣と、日本の祭りや行事を月ごとに取り上げ、友達と積極的に英語で話す。
Lesson 3	スポーツ・動作	スポーツなどできることを積極的に友達と尋ねたり答えたりする。
Lesson 4	建物・道案内	積極的に行き方を尋ねたり道案内をしたりしようとする。
Lesson 5・6	世界の国々・生活	自分の思いが伝わるように世界の国、生活、時差などを発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりする。
Lesson 7	日本の童話・世界の童話	英語で物語の内容を伝えようとする。まとまった話を聞いて内容がわかり、場面にあった台詞を考えて言えるようにする。
Lesson 8	職業・将来の夢	どんな職業につきたいか友達に尋ねたり答えたりする。世界の同年代の子供たちの夢を知り、自分の「夢宣言」をする。

新たな目標:身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う

教科化に向けて、26年度中に補助教材を作成・配布

- ◎ アルファベットの文字や単語などの認識
- ◎ 日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き
- ◎ 語順の違いなど文構造への気付き

➤自信をもって英語で積極的に「聞く」「話す」ことができ、「読む」「書く」ことへの興味を育てるようにする。

※小学校段階の語彙数は400程度を想定しているが、今後、拠点地域の研究開発校などにおいて実証し、中央教育審議会において検討

◎ 題材の充実(例)

日本の行事に加え、地元の伝統行事、文化財、地場産物など、英語を通じて「ふるさとの魅力」に興味を持ち、自分なりに英語で説明できるようにする。



アルファベットの文字の認識

ワークシート

【ホームページに掲載されたワークシートを使い、繰り返し練習することで、アルファベットの文字や単語への認識を高める】

Hi, friends!で扱ったイラストと関連付けて「読む」「書く」ことに慣れ親しむ

アルファベットの文字をまとめて書く練習、単語の中の文字をなぞり書きすることで、単語に慣れ親しむ

デジタル教材

【ネイティブの発音とともに、アルファベットの文字の書き方を視覚的に修得する】

書き方例 アルファベット

【一部が隠れたアルファベットの文字を見せて、アルファベットの文字を推測するゲームを通して、アルファベットの文字に対する認識を高める】

クイズ3 アルファベット文字探し 単語探し

日本語と英語の音声の違いや特徴への気付き

【デジタル教材でネイティブの発音に触れながら、アルファベットの文字には、読み方と音があることを知るとともに、様々な単語を言ったり聞いたりすることでアルファベットの音に慣れ親しむ】

ワークシート

ワークシート①
アルファベットの文字の認識・音の認識

A a	B b	C c	D d	E e
apple	bat	cat	dog	egg

ワークシート②
アルファベットの文字の認識・音の認識

F f	G g	H h	I i	J j
fan	goat	hen	ice cream	jack
K k	L l	M m	N n	O o
king	lion	monkey	newt	ox
P p	Q q	R r	S s	T t
pan	queen	rabbit	snake	tiger
U u	V v	W w	X x	Y y
up	vase	wolf	xylophone	yo-yo
X x	Y y	Z z		
box	yo-yo	zebra	zoo	

デジタル教材(ジングル)

動画

ジングル Alphabet

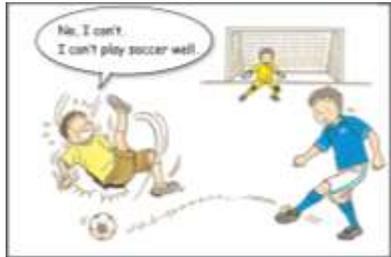
ネイティブの音声で
b[bi:], b[b], b[b],
bear[béa]と音声
が流れる

デジタル教材で視聴するジ
ングルの歌詞は、家庭など、
外国語の授業以外で子供
たちが学習内容を振り返
るのに役立つ。

語順の違いなどの文構造への気付き（絵本）

自己肯定感を高める教材

【人それぞれ、できることとできないことがあることに気付き、「I can」という表現を繰り返し「読んで」、自分に何ができるかを考えさせる。】



【例】
先生：Can you play kendama?
児童：Yes, I can. I can play kendama.
先生：That's nice.
I can't play kendama.



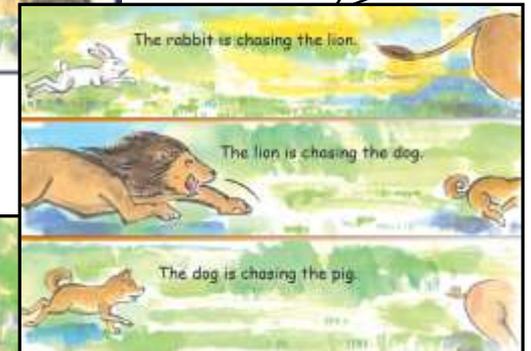
【例】
児童：I can't play baseball.
But I can help my mother.
I can make my family happy.
先生：That's wonderful.

世界平和(友だちの大切さ)に関する教材

【動物たちが追いかけてっこをする様子を通し、仲間の大切さに気づくとともに、語順などの文構造についての気付きを促す。】



【例】
先生：What animal is this?
Can you guess?
児童：Pig.
先生：Really? Is this a pig?
Let's check. Next page ...
児童：Yes, pig!
先生：Very good.



【例】
先生：Listen to me carefully.
The pig is chasing the elephant.
Which one? No. 1 or No. 2?
児童：No. 1.
先生：That's right. No. 1.
'The pig is chasing the elephant'
is No. 1



外国語活動教材の現状と高学年教科教材の在り方

(「英語教育の在り方に関する有識者会議審議(平成26年9月26日)」報告)

現状・課題

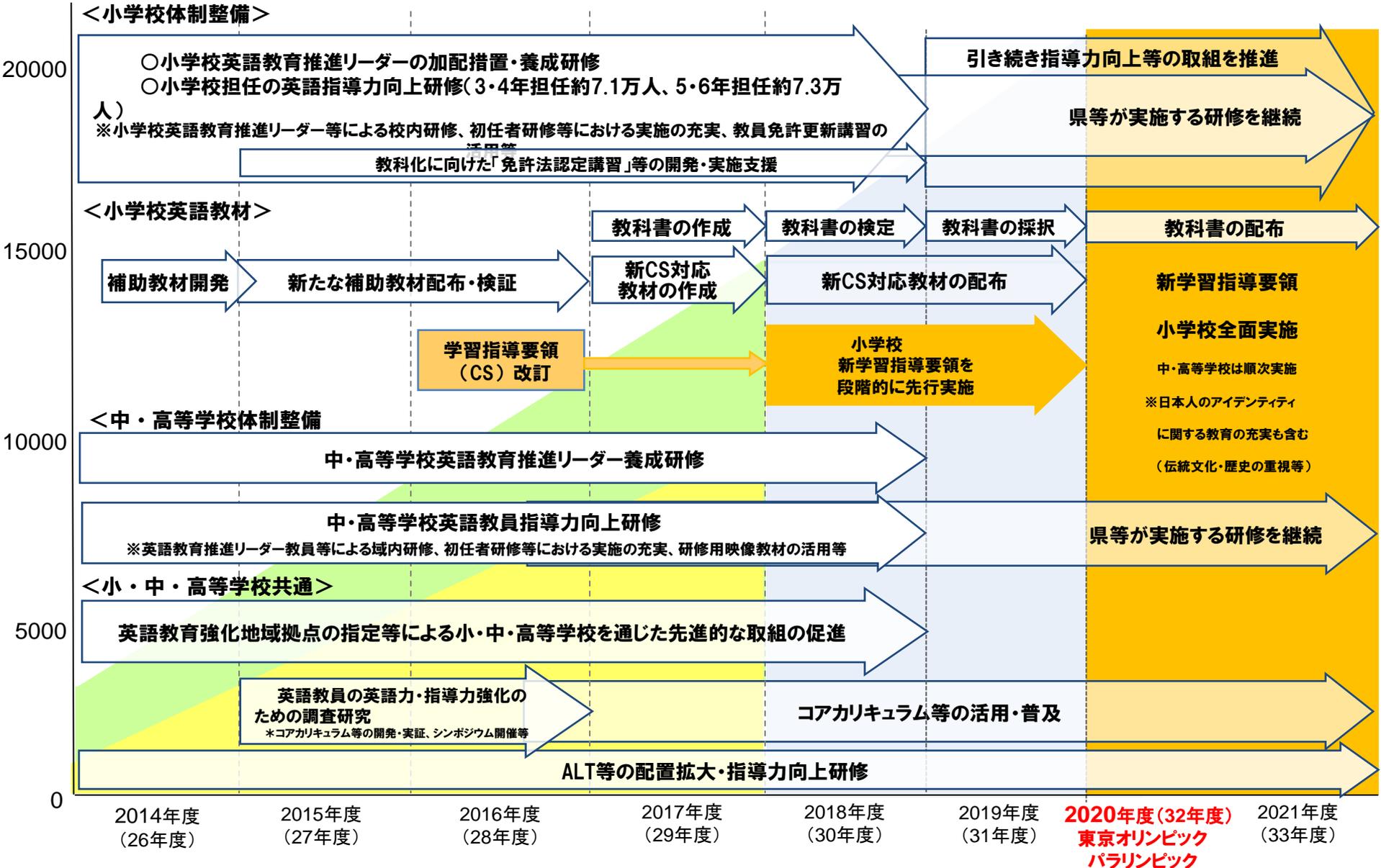
- 小学校における外国語活動においては、国により作成された小学校外国語活動教材例、「Hi, friends!」が希望する約2万校の学校に配布され、地域、学校、学級の実態に合わせて工夫・活用がなされている。また、児童の多くが外国語活動の授業や外国語学習に対して肯定的であり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されてきている。
- 中1 対象による調査では、外国語活動の授業で、「もっと学習しておきたかったこと」の回答の割合として、「英語の単語を読むこと」が77.9%、「英語の単語を書くこと」が81.7%、「英文を読むこと」が77.6%、「英文を書くこと」が78.6%であり、音声中心の活動に比べ、10ポイントほど高い数値である。小学校の外国語活動で音声中心に学んだことが、中学校での段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないこと、発音と綴(つづ)りの関係の学習や文構造の学習に課題があるなどの指摘があった。
- このような状況を踏まえ、小学校の外国語活動が導入されて一定の成果を上げているものの、中学校での学習への円滑な接続を考えると、小学校高学年段階において、文字の扱いや文構造への気付きなど、中学校との接続を意識した指導に有効な教科書・教材が必要である。

今後の方向性

- 先進的な取組も含めたこれまでの外国語活動の成果・課題を踏まえ、小学校中学年では、発達段階に応じた外国語活動に必要な教材の開発を行う。小学校高学年では、教科化に伴って教科書の整備が必要となる。また、教科化され、教科書が整備されるまでの間、国において、中学校との円滑な接続を意識した補助教材、及び新たな教材を作成する。
- 補助教材については、アルファベット文字の認識、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴、文構造への気付きを促す指導ができるようなものとし、高学年における外国語の教科化において求められる教材等として、国の「英語教育強化地域拠点事業」における研究開発校等において、平成27年度より試行的に活用しながら、その効果を検証する。さらに、その検証結果を、小学校高学年の教科化に向け、新学習指導要領移行期に各学校において活用することを想定した新たな教材開発に生かすものとする。

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール(イメージ)

(小学校数)



国が定める標準授業時数に上乗せして実施する小学校

研究開発学校・教育課程特例校(現行の教育課程の基準によらない)

新学習指導要領(小学校英語)の先行実施